



不動沢の大イチョウ

不動沢の大イチョウは雌の種で樹齢は不詳。高さ21m、幹周6m、枝張りは東西18.5m、南北17m。(平成10年越路町史より)

越路町では最大と思われる巨木は、不動沢の集落の真ん中に、守り神のようにそびえ立っており、脇には、山王神社の小さな祠があります。

ご自宅の敷地に生えており、代々祠を護っておられる酒井朝一氏と奥様に話を伺いますと、山王様をこの場所に祀ったのは約400年前と伝えられていますが、祠とイチョウのどちらが古いかは、岩田にある不動院の火災により資料が消失したため詳しいことは不明とのことでした。

もちイチョウといい、大きめな実が特徴で、山王講中16戸で分けて食べるに十分な実をつけるそうです。ただ、枝も巨大で危険な為、昭和30

年代から2回枝降ろしをするなど、それなりのご苦労も御ありとか。

家々のすぐ隣に根を張るこれほどの大イチョウは、稀な存在といえるでしょう。

酒井さんご一家共々、これからも元気で長生きをして欲しいと思いました。

uq



酒井朝一さんと奥さん



山王神社と大イチョウ

山河花園

先日、ある会の仲間達と、東京の個人庭園を中心とした視察に参加する機会がありました。
日本庭園の伝統技術を遺憾なく発揮した、造園家こだわりの庭。歴史の重みがひしひしと伝わる、庭と建物が一体化した史跡。久々に本物と出逢いました。

「ガーデンシヨウを見に行っても、伝統技術の粋を駆使した和風庭園の前に足を止めるギャラリィは少ない。芝庭やガーデニングが注目されて……。」とは、案内を頂いた日造連の井上氏の言葉でした。

日本庭園の持つ「侘び・寂び」は世界に誇れる文化ですが、我々の活躍の場が減っていくのは寂しいものです。

ところで、三月初めの東京の公園に、ヒガンザクラと一緒にペゴニアが咲いていました。真冬が減った暖冬の影響で、一年草が多年草に変化しているのでしょうか。

長岡でも暖冬のツケでしょうか、四月前半というのに毛虫が発生しています。雑草の生育も何時に無く旺盛です。自然界が、四季の変化に敏感に対応しているのには驚かされます。

さて、今年のサクラは一斉に開花したせいか見事でした。天気も良く、ちょうと週末と重なり、「花より一派」の日本人には最高だったでしょう。

uq